

KAKAJI

program suggestion report

体験の地へ

—CONTENTS—

こんな視点が大切だった

3つのプログラム提案

調査レポート

わたしの恋した体験

What 't new

子どもたちの学びと成長を最大限に高める

Program Suggestion

香々地青少年の家からのプログラム提案

「第2の学校」実証事業
集団宿泊活動調査研究

2022

はじめに

香々地青少年の家は、今では少数派となった県直営の青少年教育施設で、現職の教員を配置しています。平成28年の大分県行財政改革推進委員会で指定管理制度の導入について議論され、「第2の学校」として学校教育との関連をさらに図っていくことを確認し直営を維持することとなりました。

青少年の家の業務で、大きくウエイトを占めるのが学校の宿泊利用への支援です。この学校行事に対して私たちはこれまで十分な支援ができてきたのか、単なるスケジュール調整で終わっていたのではないか、現場の自然環境を一番よく知る者として、また教員として、もっと教育課程やプログラムに対してアドバイスするべきでなかったかという反省の元に、本年「集団宿泊活動に関する調査研究」を教育事業の筆頭に掲げ、取り組むこととしました。

本研究にあたっては、GIGAスクール構想により整備された通信環境と端末を利用したアンケート調査を行い、47校の教職員と児童生徒の方にアンケートのご協力をいただきました。学校の働き方改革が進む中、本調査に貴重な時間をさき、ご協力くださいました皆様方に深く感謝申し上げます。

本書では、このアンケート調査と実際の学校の活動の観察を元に、効果的なプログラム作成について3つの提案をさせていただきました。どれもあたりまえのことかもしれませんが、筆に起こし今後の研修等でしっかりお伝えするツールを作成したことで、変化をもたらし定着していくものと期待しています。学校関係者の皆様には是非ご一読いただき、プログラム作成の一助としていただければ幸いです。また忌憚のないご意見を弊所までお届けくださいますようお願い申し上げます。

最後に、この場を借りて職員も讃えたいと思います。報告書というと国や県の予算のついた時に作成するものという無意識の勘違いが私たち自身にあるかもしれません。本事業は、学校の校内研究のように通常の業務として、特に予算づけをすることなく取組を始めました。香々地青少年の家の組織文化と職員意識を変えるこの取組に粘り強く一丸となって向き合った職員に感謝するとともに、県教育委員会の成長エンジンとして、今後も失敗を恐れず、チャレンジを続けるイノベーター集団であり続けることを期待しています。

所長 後藤 裕之

◆ CONTENTS ◆

はじめに

- 01 こんな視点が大切だった！ . . . P3
- 02 3つのプログラム提案 . . . P4
- 03 調査レポート . . . P7
- 04 インタビュー「わたしの恋した体験」 . . . P11
- 05 What' s New . . . P12



01 こんな視点が大切だった！

— 集団宿泊活動の教育効果を高める **3つのポイント** —

アンケート調査と実際の学校の活動を観察し、効果的なプログラム立案のポイントを3つに絞り、「香々地青少年の家からのプログラム提案」（下記イメージ図）としてまとめました。これらはわたしたちがこれまでなんとなく感じてきたことですが、調査結果と具体例を交えて提案します。

子どもたちの学びと成長を最大限に高める

Program Suggestion

香々地青少年の家からのプログラム提案

提案1

ゆとり

時間設定

時間に余裕のあるスケジュールで学びを保証し、心と向き合う時間を与える



提案2

あゆみ

プログラム

アクティビティを目的やつけたい力に沿った活動にリメイクしつつ、プログラム構成する。



提案3

きづき

ふりかえり

ふりかえりのポイントを示し、時間を確保し自分たちの成長に気づかせる



02 3つのプログラム提案

提案1

ゆとり

時間設定

時間に余裕のあるスケジュールで学びを保証し、心と向き合う時間を与える

1泊2日と2泊3日の学校の子どもの生きる力（注1）の変容を比べてみたところ、2泊3日を経験した子どもの方が、ポイントの上昇が大きいことが確認されました。子どもがじっくり自然に向かい、体験を心に落とし込む時間の余裕があったということでしょうか？活動の数を絞り込むことの効果も確認されています。

また、引率の先生にも余裕が生まれ、子どもをじっくり観察できるという好循環も期待されます。

◆ 日数による生きる力の変容（平均値）の違い

1泊2日

2.6ptUP

2泊3日

4.0ptUP

（注1）生きる力は国立青少年教育振興機構が開発したIKR評定用紙（簡易版）を活用しました。

「子ども時間」を大事にした日田市立津江小学校のプログラム例

1日目

- テント設営
- 海の活動①
- プラネタリウム



2日目

- 海の活動②
- 野外炊飯①
- たき火の集い



3日目

- 野外炊飯②
- 海の活動③
- アスレチック



山間部に住む子どもたちに、海で遊ぶ楽しさを十分味わわせたいとの教員の思いで、2泊+テント泊に挑戦しました。

連泊することで前日の反省点を翌日に生かしたり、自分たちの成長を実感させることができる余裕のあるスケジュール設定ができました。

活動数もあえて押さえ、また同じ活動を何度も組んでいるのが見てとられます。海に入るのに抵抗がなくなったとの児童の感想もありました。

自然の中での「子ども時間」を大事にした学校行事の好事例と言えるでしょう。

提案2

あゆみ

プログラム

アクティビティを目的やつけたい力に沿って
リメイクしつつ、プログラム構成する

学校が作成する「しおり」のはじめにあるのがめあて（目的）です。何を重視するかは教育課程や学年の様子を踏まえて設定しますが、教職員調査を見ると程度の差はあれ重視したいことは多いようです。これはこの学校行事への期待の表れとも言えるでしょう。ただ、2日間で多くを求めるのは難しく、目的と活動の連動や整合性はとても重要です。香々地青少年の家には、いかだや野外炊飯など定番のアクティビティがありますが、目的と連動するよう選択し、進め方をリメイクしてみることをおすすめします。

◆ 宿泊研修での重視の度合い

協調性・社会性・集団生活・自主性
人とのふれあい・コミュニケーション

100%

自然とのふれあい

93.6%

心身をきたえる

89.4%

(注1) 数値は「とても重視する・重視する」が示す割合

「めあてと活動の連動」を意識した佐伯市立明治小学校のプログラム例

めあて

森と海の自然に触れ、そのつながりはどんなところにあるか考える

アクティビティ

「樹木ラリー」 ↔ 「磯観察」



始めに樹木の学習で森を巡りました。次に、隣接する海の環境をいかして、磯観察をしました。森林の役割と磯の豊かな生きものとの関連を考えられるようにリメイクしたプログラムを実施しました。

★GOOD IDEA★

めあてに多くを書きすぎているでしょうか？明治小学校は、「学習の目標（めあて）」と「行動の目標」を分けてしおりに掲載しています。めあての強弱・順序性をわかりやすく子どもに伝えています。

…明治小のしおりから（抜粋）…

【めあて】

森と海の自然に触れ、そのつながりはどんなところにあるか考える

【行動目標】

実りある学習にするための約束
「気づき、考え、行動する」

提案3

きづき

ふりかえり

ふりかえりのポイントを示し、時間を確保し自分たちの成長に気づかせる

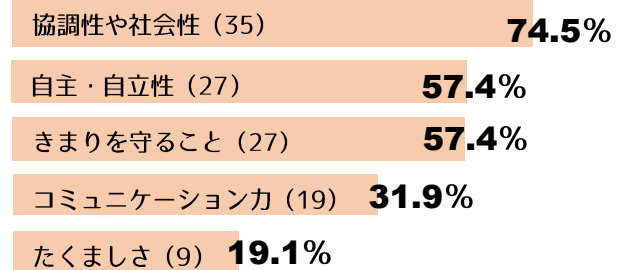
行事のあとには反省がつきものです。

帰校後ほとんどの学校で事後指導を行っています。先生方からも協調性・社会性や自主・自立性などさまざまな面で子どもの成長を感じているとの回答をいただいています。自然体験活動が子どもの心身の成長に及ぼす効果は疑うまでもありませんが、それをさらに高めるのが「ふりかえり」活動です。限られた時間ではありますが、記憶の新鮮な退所式の前の時間に、ふりかえりの時間を設定していただくことをおすすめします。

◆ 事後指導について



◆ 子どもの成長を感じる点 ※全回答数47



「ふりかえり」を効果的に実施した豊後大野市立連合小学校の例

最終日の流れ

ふりかえり



退所式



出発

新田小・菅尾小・百枝小3校の5年生が合同でチームをつくり協力する場面を多くつくりました。普段の授業から「ふりかえり」を重視していて、振り返りシートをしおりの中に入れ、退所前にふりかえりを行いました。2日間の共同生活でしたが、しっかりこの経験が心に刻まれた様子がうかがわれました。



★ふりかえりのポイント★

- ①なぜふりかえるのか
- ②どの活動をふりかえるか
- ③どんなことをふりかえるか
- ④自分はどうなれたか
- ⑤友達はどうかだったか

先生がファシリテーター役を務め、以上のようなことをわかりやすく示しながら進めることで学びを深め新たな自分の発見につながります。

大分県教育委員会では、授業改善の要素の一つとして「振り返り」の充実を進めています。

03 調査レポート

(1) 調査の趣旨

大分県教育委員会では、子どもの自己肯定感と生きる力の育成と、「主体的・対話的で深い学び」に向けた体験活動の実現に向けて大分県版「宿泊体験活動のてびき」（令和4年3月）を発行した。これを受け、学校の集団宿泊活動をより充実したものとするため、本年からその実態調査に取り組むこととした。

(2) 調査対象

令和4年度中に、香々地青少年の家において集団宿泊活動を実施した小中学校の児童生徒及び引率責任者

(3) 調査方法

- STEP① 【調査依頼】 集団宿泊活動指導者研修会（5・6月）で依頼
↓
STEP② 【事前調査】 IKR調査及び独自調査（児童生徒対象）
↓
・学校へ調査用紙及びQRコードをメール配布（学校集計なし）
・来所時に事前調査結果を学校へ提出
STEP③ 【事後調査】 IKR調査及び独自調査（児童生徒対象）
引率責任者調査（教職員対象）
・学校へ調査用紙及びQRコードをメール配布（学校集計なし）

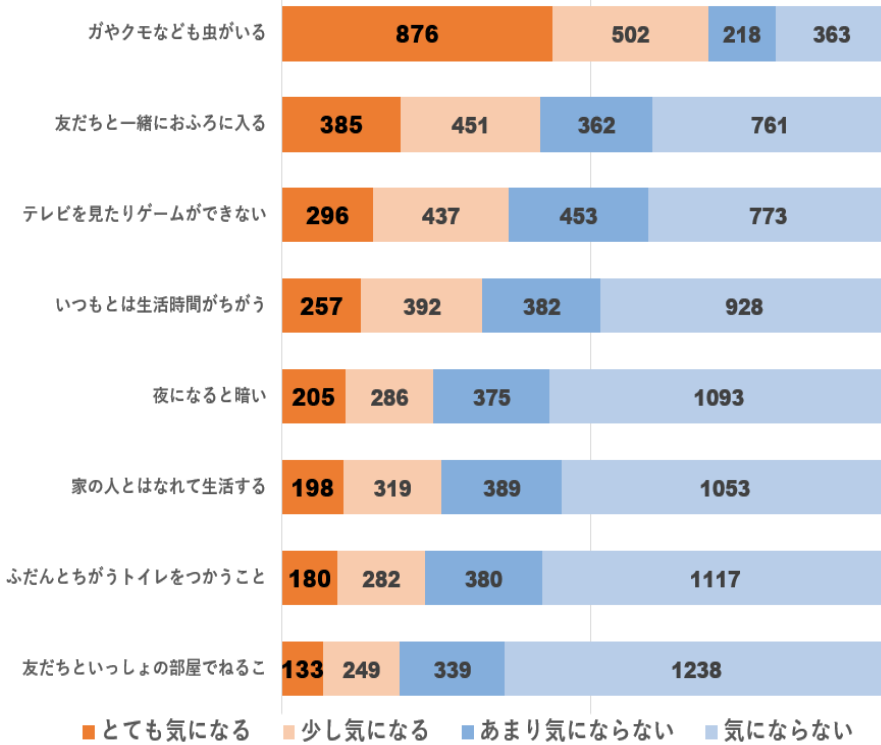
(4) 回答数

- ・児童生徒回答数 小学校1390名 中学569名 計1959名（回収率84.2%）
- ・引率責任者回答数 49名（回収率90.7%）

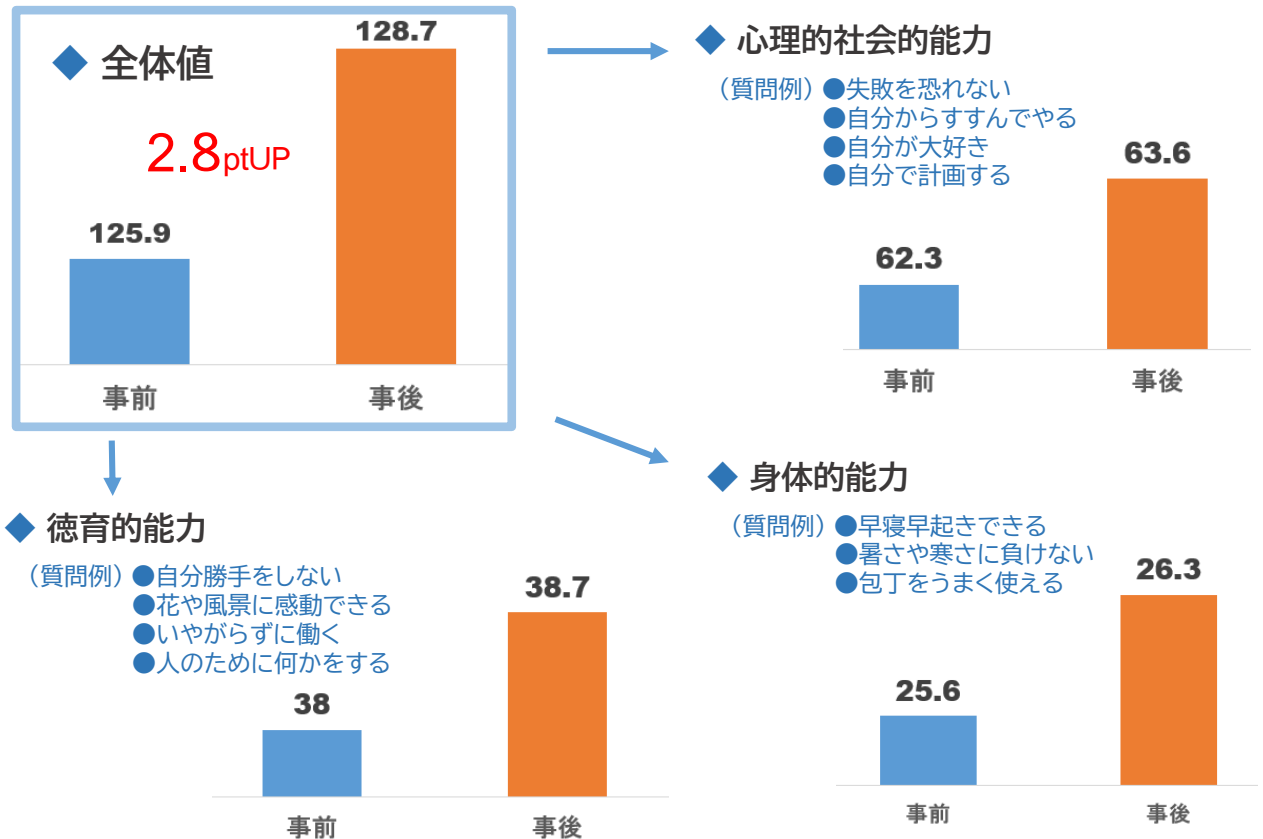


(5) 児童生徒調査の結果

Q 宿泊で気になること



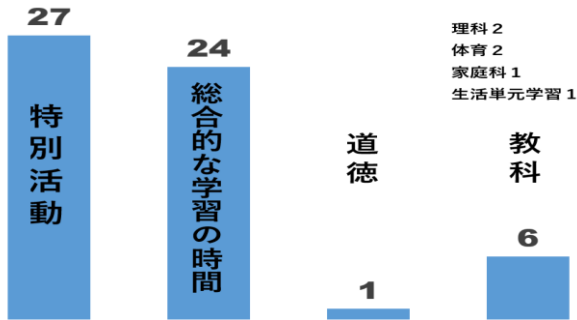
Q IKR(生きる力)調査



(6) 教職員調査の結果

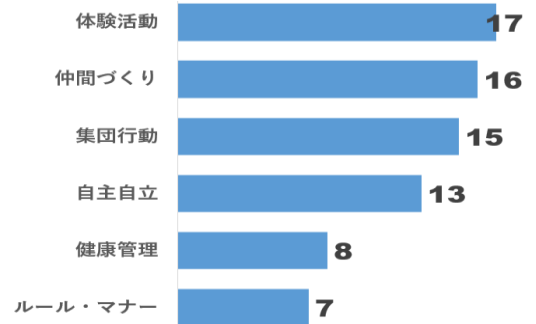
Q 教育課程上の位置づけ

※複数回答

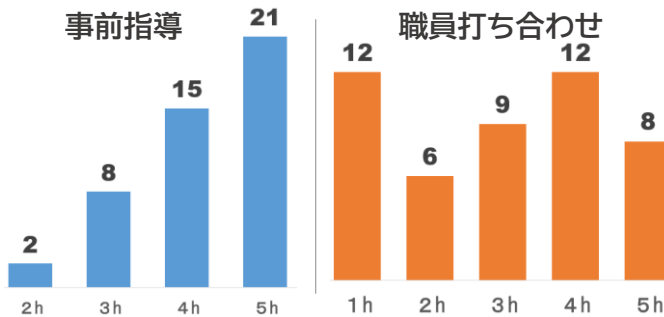


Q 重視したこと

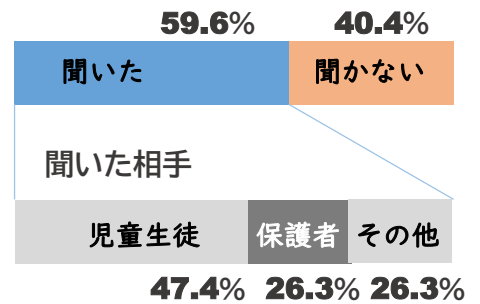
※複数回答



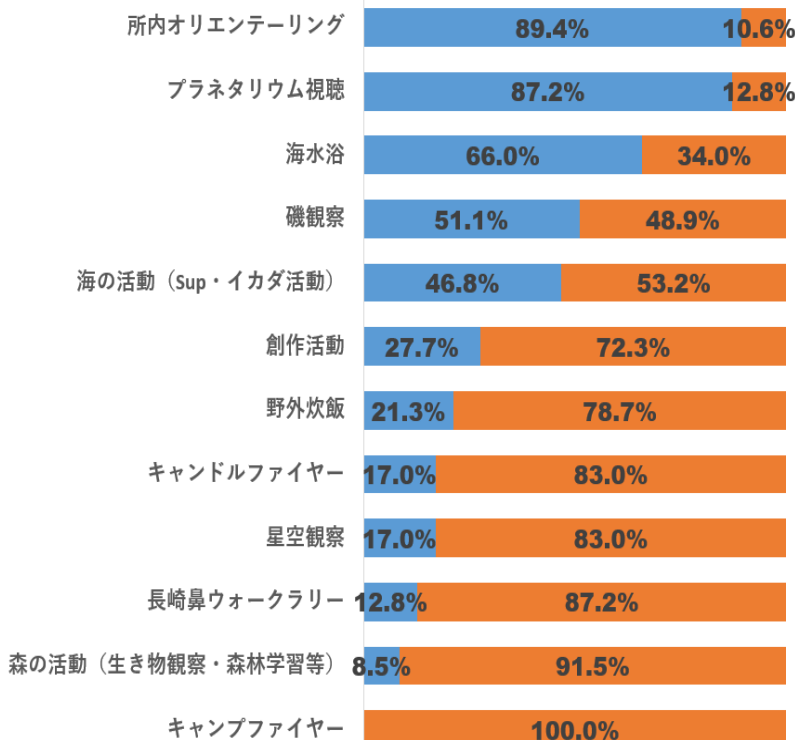
Q 事前指導・職員打ち合わせの時間



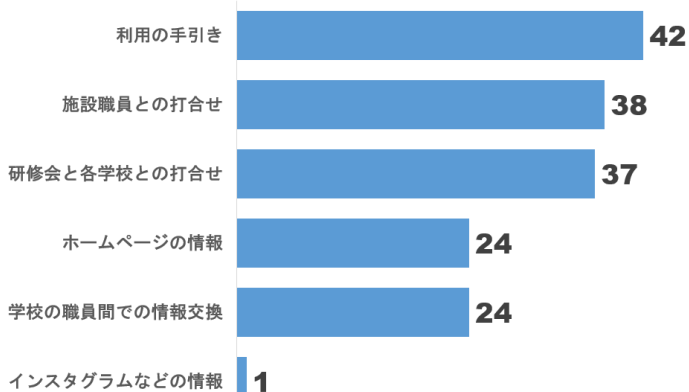
Q 教職員以外の意見



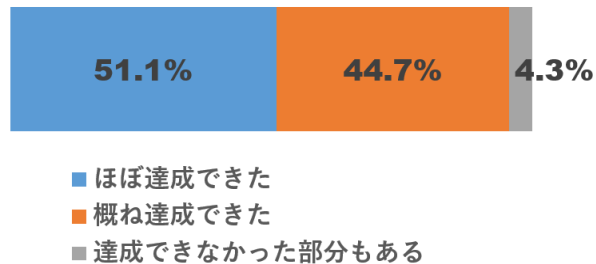
Q 実施したプログラム



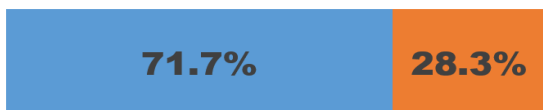
Q 計画立案で有効だったこと



Q ねらいの達成状況



Q 事後指導の方法



- 授業の中で行った。
- 授業以外の方法で行った。(しおりの提出など)

Q 今後タブレット端末の活用



活用方法

- 磯の生き物の調べ学習
- 写真によるふりかえり
- 事前学習で施設職員との出会い



04 インタビュー「わたしの恋した体験」

学校教育目標
自ら考え挑戦し「できた」とふやそう北杵築っ子
～ふるさとの力と活かし「喜び」の笑顔輝く学校～

杵築市立北杵築小学校校長
河野 邦房 氏



野外活動大好きを自認し、社会教育の分野でも講師を務める北杵築小学校の河野校長先生。学校の宿泊体験活動でも自らキャンプファイヤーを企画したり、その熱意は並々ならぬものがあります。その熱意はどこから来るのか、先生の原体験からこれまでの取り組みについてインタビューしました。

－河野校長先生の子どものころについて教えてください。

幼いころの私は、近くに山があったのでよく山に行っていました。山や森、自然の中で冒険ごっこ、ターザンごっこなどいいなと思ったらやらずにはいられない冒険心旺盛な子どもでした。ほんとに毎日が面白かったです。自然の中にはドキドキ・ワクワクさせることがいっぱいあるんです。まさに自然とのふれあいに恋した状態でした。

－教員になって面白いことを始めたと聞いていますが。

子どもたちにそんな楽しさを伝えたいと教員になりました。最初の赴任地は湯平小で自然豊かな谷底にある小学校でした。赴任2年目に「探検クラブ」をつくりました。砂金掘りや、外に出てとにかく同じ方向にまっすぐ進み続けるなどいろんな企画を考えました。子どもの冒険心をくすぐるのが楽しかったですね。「今日は何をするのだろう」という子どもたちの「わくわくした思い」と、実際に感じた「生の体験・感触」はずっと心に残っていくと思います。「探検クラブ」は赴任したすべての学校でつくり、管理職になるまで30年以上かかわることとなります。

－探検クラブは今もあるのですか。

残念ながら私が他校へ赴任すると「探検クラブ」はなくなるんです。引き継ぐ教員がないんです。自然体験の乏しい教員も増えてきています。

また、子どもたちの取り巻く環境も変わってきていて毎日のようにオンラインゲームをしていてデジタル端末がないと不安になるような状態です。これからの子どもたちはますます自然体験が不足していくのではないかと心配しています。

－香々地青少年の家の役割をどう考えますか。

子どもの「海ばなれ」が言われていて、海水浴も最近では珍しくなっています。香々地だからこそできる体験をさせてほしい。でも教職員は所の職員に丸投げをしてはいけないと考えていますので、活動の前の打ち合わせで的確なアドバイスをいただきたい。それが教職員の学びにつながります。自然体験は子どもたちの成長に欠かせないものですが、それを学校生活につなげて行くには教職員のスキルアップが必要です。



－教職員の方にもメッセージをお願いします。

最近は教職員にも小さい頃の自然体験が少ないという方も増えてきているようですが、子どもと一緒に体験しながら学んでいってはどうでしょうか。一番大切なのは子どもと一緒に楽しみ「学びを共有」することだと考えています。それは授業でも同じです。

(インタビュアー 沼野)

05 What's New

◆ キャンプ場オープンしました。ぜひご利用ください

Information

- **定員** バンガロー(12棟) 100名 テント25~60名
※変更の可能性がります。キャンプ場の利用方法も含めてお申込みの前にご相談ください。
- **申込** 利用日の1年前から予約ができます。まずはお電話で
- **連絡先**
海と星のミュージアム
大分県立香々地青少年の家
事業課 (0978-54-2096)

◆ 魅力的なアクティビティを導入しました。ぜひ体験してください。



海上トランポリン



バナナボート

◆ 集団宿泊活動指導者研修会
ぜひご参加ください。

開催日 第1回 5月12日(金)

第2回 6月12日(月)

内容 ◆講義「集団宿泊活動の意義」

◆学校間協議

◆個別相談

**集団宿泊活動の
学習指導要領における
位置づけ**

資質・能力の三つの柱

- ▶ 生きて働く知識及び技能の習得
- ▶ 未知の状況にも対応できる思考力・判断力、課題等の発見
- ▶ 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養

何ができるようになるか
新しい体験を通して、学習意欲の向上

「社会に活かされた教育課程」の実現
「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか
集団宿泊活動を通して、資質・能力を鍛え、課題発見・解決の経験や目標達成の喜びを味わう。

どのように学ぶか
【小学校】自然の中で、自然や文化などに親しむとともに、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。
【中学校】平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。

※参考：小・中学校学習指導要領(令和3年度) 特別活動編
集団宿泊活動の教育効果(国立青少年教育振興機構)

◆ 宿泊体験活動のてびき (HP掲載) 活用ください。

豊かな体験活動推進事業 (令和元年度~令和3年度)
(取組名称: 健全育成のための体験活動推進事業)

**大分県版
「宿泊体験活動のてびき」**

令和4年3月
大分県教育委員会

参考文献 「集団宿泊活動の効果的なあり方に関する調査Ⅱ」報告書
国立那須甲子少年自然の家 平成18年2月発行

おかげさまで50年 香々地青少年の家

K.COMPANY
Sea & Star Museum



発行 令和5年2月

編集 大分県立香々地青少年の家

〒872-1202 大分県豊後高田市香々地5151
TEL:0978-54-2096 FAX:0978-54-2152
E-mail:a31514@pref.iota.lg.jp